

献呈の辞

駒澤大学法学部教授小堀訓男先生は、本年三月末日をもって本学を定年によりご退職なさいました。先生には四〇年余の長きにわたって、本学および法学部に対して多大のご貢献をいただきました。法学部教員一同よりの感謝の念をこめて、本書『駒澤法学』第十三巻第一号（通巻第四九号）を先生の退職記念号として編纂し、ここに謹んで献呈いたします。

先生は法政大学法学部をご卒業になり、同大学院社会科学研究所政治学専攻修士課程を修了されたのち、他大学での非常勤講師のご経験を経て、一九七二年に本学講師に就任され、一九七五年に助教授、一九九一年には教授に昇任されました。「国際政治学」、「アメリカ政治論」、「国家安全保障論」等の科目を担当されて、一貫して情熱あふれるご講義で学生たちをご指導くださったことは皆様よくご存じのとおりです。二〇〇三年から二〇〇九年までの間は、マス・コミュニケーション研究所長を兼務され、日頃の講義や演習とは異なる角度からのご指導もいただきました。

ご研究の面では、民族、階級、宗教など多角的な視野から、「国家の行動基準」の解明につとめられるとともに、一九八五～八六年および二〇〇一～二〇〇二年にはスタンフォード大学フーバー研究所客員研究員として、第二次大戦

中の米中関係に関する調査・研究に取り組んでこられました。

また、先生は、一九九七年から二年間、法学部政治学科主任として政治学科の運営にあたられ、さらに二〇〇九年から二〇一一年には法学部長として大学行政にも大きな貢献をされました。学部教授会で司会をなさる先生のよく響くバリトンのお声は、今も耳にのこっております。二〇一一年四月からは、周囲の懇望によって苫小牧駒澤大学学長の要職に就任され、現在もご活躍中でいらつしやいます。

法学部教授をご退任後、名誉教授となられてからも、学長としてますます多忙な日々をお過ごしのことと拝察いたしますが、先生の一層のご活躍とご健勝をお祈りするとともに、今後とも法学部に対してご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。献呈の辞とさせていただきます。

法学部長 大山礼子